

九州大学での四半世紀への感謝

伊藤早苗

縁あって九州大学応用力学研究所教授に着任したのは1992年7月のことです。それから四半世紀以上を本学で過ごし研究に邁進できた幸せを感謝しております。

「高温プラズマの異常輸送」という何十年來の謎に挑戦していた私は、解明の糸口はプラズマ乱流物理学の研究にあると思い定めていました。九州大学在職中に仁科記念賞やフンボルト賞などをいただき、プラズマ乱流物理学を進めるという自分のビジョンに自信を持つ事が出来るようになりました。幸い、科学研究費の支援を受け、特別推進研究「乱流プラズマの構造形成と選択則の総合的研究」プロジェクトを実現する事が出来ました。概算要求による設備も設置いただき、引き続く基盤研究(S)、奨学寄附金にも支えられ、国内外の共同研究者とともに、プラズマ乱流物理学に新境地を拓き続ける事に心血を注ぎました。

春は桜並木・秋は紅葉の巨樹の並木が美しい春日キャンパスに、優秀な若手研究者が集い・育ち・活躍し、それによって九州大学を中心にプラズマ乱流物理学の世界的拠点が出来上がったと思います。プラズマの異常輸送の描像も4半世紀前とはがらりと変わりました。

国際的拠点への道のりで印象深い事を述べると、主幹教授制度発足に伴い主幹教授に任じられ「伊藤プラズマ乱流研究センター」を作りました。(現在は、「極限プラズマ研究連携センター」に発展。) 九大とフランスのCNRS、プロバンス大、阪大、核融合研と共に日仏連携研究所LIA336も発足させ、プラズマ乱流物理学の発展と若手の「国際キャリアパス」を実現しようと思いました。独・仏出身の二人の九大助教が着任し、その後母国で大活躍しています。また、英国IoPや欧州物理学会(プラズマ物理学分科)の支援を受け、同学会での研究発表に基づき優秀な大学院生を表彰する「伊藤賞」を創設しました。これは受賞者を九大に招聘し、総長から賞状を授与いただくとともに共同研究をするもので、既に13年を経ており、梶山総長(第21代)・有川総長(第22代)・久保総長(現第23代総長)

の三代の総長に及んで 13 名が受賞しています。(既に受賞者から米
国一流大学の教授が生まれています。) この「伊藤賞」は、私が定
年退職後は、平成 29 年度から「九州大学伊藤賞」として継続いた
っており、更なるご支援をいただきありがとうございます。

また、理学府の講義を行い、総合理工学府の大学院生教育に参加
し、国際交換講義を開設し、40 名の修士、10 名の博士(うち 2 名は、
仏プロバンス大からの twin doctor も授与) が研究室から育ち、産
業界やアカデミアで活躍しているのも嬉しい事です。

振り返ると、東京大学の大学院生でいた頃から世界を巡り国際共
同研究に努めて来ました。独・米・英・仏の諸大学と協定を作り、
理念を共有する世界中の人たちと共同研究・国際教育する拠点を九
大に実現できた事は幸せな事だと思っています。

プラズマ物理研究に詰めていた学究生活にあって、総合大学とし
ての九大を深く知る機会を得たのは、総長補佐(杉岡総長(第 20 代)
時)、総長特別補佐と副学長(有川総長(第 22 代)時)に任じられ、全
学の多士済々な先生方と知り合うことができたおかげです。そして
久保総長のもと理事・副学長として国際・男女共同参画・知的財産
などを担当しました。九大では水田祥代先生(現福岡学園理事長)
はじめ活躍する女性研究者を輩出しています。それが増えれば、九
大はますます活性化するでしょう。自分の経験から「賞が人を伸ば
す」との思いが強く、優秀な九大女性研究者・大学院生の表彰制度
実現にも力を尽くしました。「インクルーシブネス」の考えを政策に
活かすべく、文部科学省の委員会での提言を行ったりしてまいりま
した。

この機会に、とても優秀な秘書さん達に支えられた事そしてゾン
ネさん(春日キャンパス内の学食)が生活を支援してくださった事
にお礼を申し上げます。

研究・教育・診療が九大の柱ですが、それら全てで私を育て支え
て下さった九州大学の四半世紀に心から感謝したいと思います。躍
進百大を掲げる九州大学の今後のますますの発展を祈念いたします。